

トピックス

円筒型ふ化器によるアユ卵の管理

アユの種苗生産事業について、内水面試験場では親魚養成とアユの種卵の供給を行っていますが、円筒型ふ化器(写真)を導入しました。

従来は魚巢(人工水草)1本に4万粒を付着させて最大900本を管理し、死卵の除去や水生菌の消毒に手間がかかりました。

一方、円筒型ふ化器では比重の小さい死卵は上層に、正常卵は下層に分布するので、死卵の除去が簡単にできます。また、従来の方法と比べて、卵を高密度に收容でき、消毒薬も大幅に削減できました。さらに、種苗生産時の生残率も向上しました。

このように円筒型ふ化器は優れた点が多いため他県の種苗生産施設からも注目されています。



円筒型ふ化器

案内図



【交通機関】 JR 橋本駅南口バス 2 番から相模川自然の村行き
終点下車徒歩 5 分

【所在地】 神奈川県相模原市緑区大島 3 6 5 7 〒252-0135

【電話】 042-763-2007 【FAX】 042-763-6254

【ホームページ】 http://www.agri.pref.kanagawa.jp/naisui/n_index.asp



神奈川県水産技術センター 内水面試験場



アユ



ワカサギ



ミヤコタナゴ



ホトゲドジョウ

沿革

この試験場の前身は、昭和 17 年に小田原市鴨宮に設置された神奈川県水産増殖指導所の淡水魚増殖部門で、昭和 38 年に相模原市下溝に分離移転し、淡水魚増殖場として発足しました。昭和 48 年に淡水魚増殖試験場と改称し、平成 7 年 4 月、水産総合研究所内水面試験場として相模原市大島に移転し、平成 17 年 4 月、水産技術センター内水面試験場と改称しました。

組織

神奈川県水産技術センター
 管理課
 企画資源部
 栽培推進部
 相模湾試験場
 内水面試験場

研究の主な内容

増殖・養殖研究

アユやワカサギ等の発眼卵や種苗の生産・管理技術、放流技術などの研究と漁業協同組合や養殖業者に対する技術指導



PCR 検査映像 産卵用魚道とワカサギ

病理・生理研究

魚病診断、新型ワクチンの開発などの予防対策や治療対策の研究



標識放流アユ

資源管理研究

河川湖沼におけるアユやワカサギ等の資源・生態の調査および資源管理手法の開発研究



ミヤコタナゴ復元試験池

在来魚保全・活用研究

在来魚（ヤマメ）の生息環境調査と、種苗として活用する研究

環境保全研究

魚がすみよい川づくりのため、魚道や多自然護岸の研究開発と助言・指導



NPO との川の調査イベント

河川環境等復元研究

ミヤコタナゴ・ホトケドジョウ等、絶滅に瀕した魚類の分布・生態調査、増殖技術開発及び水辺ビオトープや自然水域における生息地復元研究

施設の特徴

- *循環ろ過方式による飼育水の高度利用
- *水温制御や自動給餌システムの導入による魚類の飼育管理
- *環境に配慮した実験廃水処理システムや大型沈殿池の設置
- *絶滅危惧種の生息地を復元した水辺ビオトープの整備
- *大型の魚道実験施設の整備
- *研究情報の解析、発信を行う情報処理室の整備
- *クリーンルームや遺伝子解析機器など病理生理研究施設の整備
- *魚の生態が観察できる展示ホールや見学コースの整備

(単位: m²)

施設概要

敷地面積	17,830	屋外池面積	2,282
建物延べ床面積	4,584	生物工学飼育池	216
本館棟	907	アユ親魚飼育池	216
遺伝育種棟	400	量産技術試験池	1,000
生物工学試験棟	734	魚類生態試験池	500
量産技術試験棟	1,222	谷戸池	350
環境試験棟	710	その他(沈殿池)	448
餌料培養試験棟	425		
機械棟	187		

